

特定非営利活動法人 りんりん



“道の駅を”…

猛暑にあえいだ今年の夏でしたが、ストーンと涼しくなり、暑さ寒さも彼岸までという言葉どおりに季節の移り変わりを感じています。そのお陰でしょうか、今年は矢勝川の土手の彼岸花がいっせいに咲き出し、去年にもまして見事な景観を見せてくれています。

この原稿を書いている今、まっ赤な彼岸花が続く土手の向こうに権現山が見え、土手の下には黄金の稲穂が広がるこの風景



を“お宝発見！”と思ったのは3年前の秋でした。新しい事務所を建て、眼前に広がる景色の中を大勢の人々が散策している姿を目にしたときです。

今年“童話の村・秋まつり”を半田市や観光協会・商工会議所・地元の商店・地域の人たち、そして私たちりんりんも一緒になって企画・実行しました。何回も重ねた話し合

いの場をりんりんが提供し、お役に立てたことはうれしいことでもありました。

童話作家・新美南吉の生誕百年はあと五年後です。大勢の人々が訪れるこの地にお休み処・お土産処となるような“道の駅”を造ろうとする機運が高まっています。私はそれに加えて、60才以上の人たちが生きがいを持って働ける場所作りをし、“介護予防事業”にしたいと考えています。福祉と文化を併せ持った“道の駅”は他にあるでしょうか。私のたわごととお笑いにならず、この夢の実現にみなさんの力をお貸し下さい。

理事長 村上真喜子

第4回 りんりん作品展

秋分の日の9月23日、りんりん1階ホールでは4度目の作品展が催されました。「秋まつり」に協賛するかたちになりました。矢勝川沿いにいまを盛りと咲く彼岸

事務所玄関東側にテントと椅子が設置され無料休憩所になっています。玄関脇のテーブルには冷たい飲み物が置かれ、その隣ではでっかいフランクフルトソーセージを鉄板の上でごろごろと転がしながら焼いています。また南側には、常滑焼のかまどが据えられて、手作り炭火焼きピザの焼き上りを何人もの人が並んで待つ



ています。茄子とトマトとチーズをのせたピザはバジルの香りがさわやかで、アツアツを頼る人を見るとまた買う人が増えます。



玄関を入ると、机の上に新美南吉の絵本が美しい表紙を競うように並べてあり、思わず立ち止ってしまいます。「童話の村・秋まつり」にふさわしい展示です。



さをり織りコーナーでは例年通りコート、ジャケット、Tシャツ、ロールネックのベスト、マフラー、タペストリーなどの作品が並んでいます。ことに昨今のマフラーばかりで、このさをり織りコーナーにもさまざまな

色彩と、デザインの作品が並びます。体験コーナーでは、若い女性2人、小学4年生の女の子、小学2年生の男の子が教えられながら、手と足をぎこちなく動かし織っている姿が人目を引きます。

が開催されました!!

今年、岩滑地区で9月20日から10月13日まで開催される「童話の村・花。絶好の散策日和に誘われて多くの人立ち寄り、大にぎわいでした。

タティングレースのコーナーは、たくさんの野菜をモチーフにした大きなタペストリーが壁に掛かっています。ビーズのコーナーには、ネックレス、ペンダント、ブローチ、イヤリング、と繊細な作品が並び、体験コーナーでは、ビーズを使ったぶどうのストラップを作っています。



絵手紙の部屋には、周囲の壁面にカラフルな絵手紙がいっぱい展示してあります。中央の絵手紙体験コーナーの机の上には、ちょうど盛りの彼岸花とゴーヤ、それに珍しい「四角豆」が置かれて、先生



の指導を受けながら4人の方が熱心に筆を動かしておられます。

小物のコーナーは今年も大人気。袋物、コースター、ティッシュカバー入れ、アームバンド、ユニークなわどりの鍋つかみ、やさしい絵柄の絵ハガキも並んでいます。



村上代表はりん
りんの建物のすぐ
北側で彼岸花を見
に訪れた人たちを
威勢よくりんりん
へと呼び込みます。
隣では、フリーマー
ケットの店がにぎ
やかに客を誘って
います。急須、茶碗、
お盆、菓子器、花瓶、ぬいぐるみ、これに並んでTシャツや上着もあり
試着する人、値切る人…。



半田商工会議所 優良従業員表彰受賞



ヘルパー 加藤 豊子 さん

9月18日、半田商工会議所「平成20年度会員及び会員事業所優良表彰式」においてヘルパーの加藤豊子さんが表彰されました。加藤さんは平成10年以來10年の間、ヘルパーとして活躍され、利用者さんからも厚い信頼を寄せられています。

「りんりに所属したおかげで、この歳になってこういう表彰を受けることができたことを感謝しています。でも、この歳だからこそ人生の先輩である利用者さんの思いがわかるの、ヘルパーとしてわたしたちの年齢層も求められているんじゃないかな。わたしは本質的に人間が好き、この仕事が好き。わたしに合っているんだと思う。利用者さんに教えられることも多いしね」

加藤さん、おめでとうございます。

ーディサービスやなべの講師の先生ですー

佐藤 迪子 先生

唱歌

小学生が好きだったので小学校で子供たちと過ごしてきました。現職の頃から夢が3つあって“コーラス・仮名を書く・出来ればどなたかに本を読んでさし上げたい”と思っていました。

「健康であることが
いかにしあわせであるかを
身にしみて知った」



伊藤雄二さん(54歳)

腎臓病で透析を受けている伊藤さんは、今、週6回のケアサービスを受けて暮らしている。4年前入院、これからどうやって生きて行こうかと思っていた時りんりんを紹介されひと安心した。りんりん主催の“セントレアバスツアー”に参加したのがきっかけで、以来りんりんとつながっている。「初めは、ヘルパーさんを使うには若いし、来てくれるヘルパーさんに気を使い緊張しました。今は、5人の人にかわるがわる来てもらっています。人によって個性もちがい話題もちがうので、それなりに面白いと感じます。」

18年前、病気になるまでは健康のことや親のことなど考えもしなかった。自分の健康も親の心づかいも気づいていなかった。働いて、旅行やスポーツを楽しむ…人並の幸福を得たかった。それが“しあわせ”と思い、実際に旅行そして野球やテニスなどのスポーツを楽しんでいた。しかし自分が病気になって初めて、健康がいかに大切に思い至り、また親のありがたさを痛感した。いつも自分を無条件で受け入れて愛してくれる人が親以外どこにいるのだろうか、と心底感じている。

伊藤さんの日常生活はある程度制限はあるものの、車に乗ればどこへでも行くことが出来るので、喫茶店に行ったり、月1回りんりんの“サロン”で友人との食事を楽しんだりしている。

今は、「人様が自分の世話をしてくれて下さるだけで感謝です。皆さんいい人ばかり」「先行きの不安はつきないが自分が生きた“証”を残したい」という。

平成20年(2008)10月

NO.37

発行/特定非営利活動法人 りんりん
半田市岩滑高山町5丁目4番地
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623
http://www.rinrin.npo.gr.jp/

ありがとうございます

皆さまの温かいご支援がりんりんを支えています。

ご寄付ありがとうございます

水野陽子	匿名	榊原志づゑ	山本のぶ江
竹内フサ	沢田ちえ子	榊原照子	中川佳子
加藤まさこ	杉浦ひろ子	門井昌子	杉田博子
稲生富子	吉田二三子	塩谷仁代子	(敬称略)

●りんりん作品展で、たくさんの方からご寄付を頂きました。

平成20年度賛助会員

市野房枝	黒野佳子	吉川智子
加藤暉子	森 薫	(敬称略)



りんりんのできごと

研修会

6月 「食中毒の予防・感染症について」……………29名
 7月 「認知症について」……………32名
 8月 休み

	6月	7月	8月
絵手紙	22名	26名	22名
さをり織り	20名	26名	28名
生き生きサロン	104名	112名	92名
小物づくり	2名	6名	休み
タティングレース	1名	1名	休み

(延べ利用人数)

会員数

協力会員	利用会員	賛助会員	合計
105名	63名	63名	231名

(H20/9/30現在)